

(ノート)

佐賀県松浦海区のコウイカ類とケンサキイカの漁獲量推定方法

山口忠則

Estimation Techniques of Catches of Cuttlefish and the Swordtip Squid in the Matsuura Area of Saga Prefecture

Tadanori YAMAGUCHI

佐賀県松浦海区におけるコウイカ類とケンサキイカの漁獲量把握には、九州農政局佐賀農政事務所が編集し、佐賀農林統計協会が発行する「佐賀県農林水産統計年報」の松浦海区における漁業種類別魚種別漁獲量を利用してきた。しかし、平成18年調査から調査体系の大幅な見直しが行われ、「いか類」が「するめいか」「あかい」「こういか類」「その他のいか類」の4分類から、「するめいか」「あかい」「その他のいか類」の3分類になり¹⁾、農林水産統計年報を用いてコウイカ類の漁獲量を把握することができなくなった。また、ケンサキイカの漁獲量についても、農林水産統計年報の「その他のいか類」の漁獲量から玄海漁協魚市場（旧玄海漁連魚市場）と株式会社唐津魚市場で扱われるアオリイカやヤリイカ等の水揚量を差し引いて推定していたことから、漁獲量の把握が困難になった。

一方、佐賀県玄海海域で漁獲されるコウイカ類の多くは、玄海漁協魚市場または株式会社唐津魚市場に水揚げされる。そこで、これらの市場の伝票を用いてコウイカ類の漁獲量を推定し、平成19年以降も継続的にコウイカ類とケンサキイカの漁獲量を把握できるかどうか検討した。

材料および方法

平成4年から18年にあたる第43次から第54次までの佐賀農林水産統計年報²⁻¹³⁾に記載された「こういか類」の漁獲量と、玄海漁協魚市場と株式会社唐津魚市場の伝票からそれぞれ抜き出した「甲イカ類」と「甲いか」の水

揚量の合計を比較した。

結果および考察

コウイカ類について、農林水産統計年報の漁獲量と市場の水揚量の合計を比較したところ、平成4年の両者の差は98トンであったが、その後しだいに縮小し、平成12年以降の差は7トン未満であった（図1）。平成12年以降の両者の相関係数は0.84となり、高い相関が認められた。差が減少した原因の一つとしては、両市場から比較的遠方に位置する伊万里湾や仮屋湾などで行われていた“いかかご漁業”が漁業者の高齢化や魚価の低迷、資源の減少などのために、現在ではほとんど行われていないことが考えられる。

したがって、平成19年以降、佐賀県玄海海域におけるコウイカ類の年間漁獲量を玄海漁協魚市場の「甲イカ類」と株式会社唐津魚市場の「甲いか」の水揚げ量の合

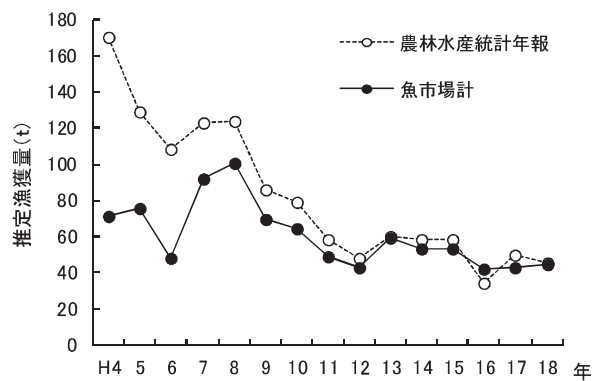


図1 コウイカ類推定漁獲量の推移

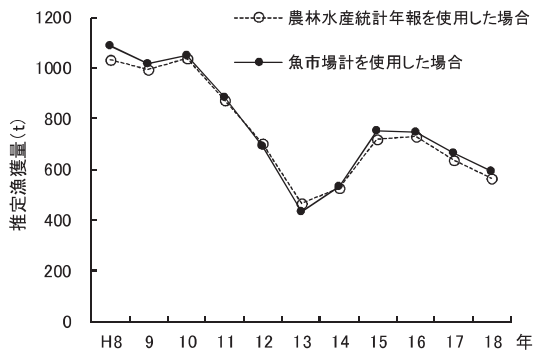


図2 ケンサキイカ推定漁獲量の推移

計で求め、農林水産統計年報に記載された平成18年以前の「こういか類」の漁獲量と比較することは特に問題ないと考えられる。

したがって、ケンサキイカの年間漁獲量も以前と同様に、農林水産統計年報の「その他のいか類」から、まず玄海漁協魚市場の「イカ、笹イカ、水イカ、もいか」と

株式会社唐津魚市場の「笹いか、水いか、俵いか、ほたるいか、てれこいか」の年間水揚量を減じ、さらに上記のコウイカ類の漁獲量を減じて求めることができる（図2）。

文 献

- 1) 農林水産省（2009）：第55次佐賀県農林水産統計年報.
- 2) 農林水産省（1997）：第43次佐賀県農林水産統計年報.
- 3) 農林水産省（1997）：第44次佐賀県農林水産統計年報.
- 4) 農林水産省（1998）：第45次佐賀県農林水産統計年報.
- 5) 農林水産省（1999）：第46次佐賀県農林水産統計年報.
- 6) 農林水産省（2001）：第47次佐賀県農林水産統計年報.
- 7) 農林水産省（2002）：第48次佐賀県農林水産統計年報.
- 8) 農林水産省（2003）：第49次佐賀県農林水産統計年報.
- 9) 農林水産省（2004）：第50次佐賀県農林水産統計年報.
- 10) 農林水産省（2005）：第51次佐賀県農林水産統計年報.
- 11) 農林水産省（2006）：第52次佐賀県農林水産統計年報.
- 12) 農林水産省（2007）：第53次佐賀県農林水産統計年報.
- 13) 農林水産省（2008）：第54次佐賀県農林水産統計年報.